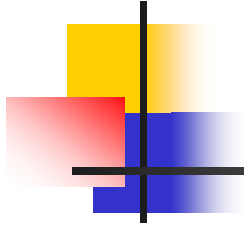


核融合研究作業部会（第3回）における「ITER計画及びBA計画の実施体制」の主な論点

【研究活動に関する新たな意見集約等の場（核融合エネルギーフォーラム（仮称））】

- ・ 今後、ITER及びBAが実施段階に入ると、国の政策に関わる検討のうち技術的な課題等について、機動的かつ詳細な議論を行うとともに、コミュニティに対し、広く情報を提供する機能をあわせ持つ新たな場（核融合エネルギーフォーラム（仮称））が必要ではないか。
- ・ 核融合エネルギーフォーラムの事務局について、現段階では原子力機構と核融合研が連携して行うことが最も現実的であるが、過去の議論では中立性確保のために第三者機関を新たに設置してその機能を担うべきとの意見があったことにも留意すべきではないか。
- ・ 核融合エネルギーフォーラムが意見調整の役割を果たすにあたっては、本作業部会から明確なタスクが提示される必要があるのではないか。
- ・ 物事を具体的に決定するための組織としての新たな機能と、研究者コミュニティ側から意見や提案を出していく従来の核融合フォーラムという両方の機能が必要ではないか。
- ・ 核融合エネルギーフォーラムでは、国からの要請に応じて議論することが多くなると予想されるが、核融合研究作業部会との関係を明確にする必要があるのではないか。
また、委員会的な組織を設置することや実効的な名称について検討する必要があるのではないか。
- ・ 核融合エネルギーフォーラムを最終決定の場にするような気持ちで取り組まなければ、様々な意見を明確に反映することは出来ないのではないか。



【連携協力体制】

- ・ 連携することで役割を分担することと、オープンな体制によって緊張関係を保つことが、連携プロジェクトの最も重要で難しい課題ではないか。
- ・ ミッションの達成と物理の学術的な解明とは密接にリンクしているため、両者を分けて研究計画を立案するには、大変な調整が必要になるのではないか。全体を統一的に進めなければ、相当の無駄が発生するのではないか。
- ・ 学術的な面とミッション面のどちらが強い意味合いを持つかで共同研究を分けることも考えられるのではないか。
- ・ ITERへの直接的な協力だけでなく、BAのコンピューターシミュレーション、材料、ブランケット等について、それぞれ連携の仕方が違うことが予想されるため、それぞれ具体的なテーマについて、連携の進め方を調整の場において議論する必要があるのではないか。
- ・ ITER、BAの連携企画に関する組織が出来た後は、関係者の意見を吸い上げつつ、ミッション・オリエンテッドな計画として、出来ることと出来ないことの仕分けを行った上で、早急に連携体制を構築していくことが重要ではないか。